

シンポジウム「遠山史学と歴史学の現在」

趣旨文

遠山茂樹氏が2011年8月31日逝去された。遠山氏は『明治維新』(1951年)、『昭和史』(1955年)、『戦後の歴史学と歴史意識』・『明治維新と現代』(1968年)、『福沢諭吉』(1970年)、『日本近代史Ⅰ』(1977年)、『歴史学から歴史教育へ』(1980年)、『自由民権運動と現代』(1985年)『明治維新と天皇』(1991年)などといった著作を通じて、さらには共著・共編の『自由民権期の研究』(1959年)、『歴史像再構成の課題』(1966年)、『近代天皇制の成立』・『近代天皇制の展開』(1987年)に結実するような共同研究の中心的組織者として、戦後の歴史学を身をもって体現し、かつリードしてきた研究者であった。

氏の学問は、明治維新史や自由民権運動研究をはじめとする日本近現代史、東アジア歴史像の再検討を通じた史学方法論、昭和史論争における歴史叙述をめぐる問題、歴史教育論にいたるまで幅広い分野にわたっている。また、1968年・1969年の二度にわたって家永教科書裁判で証言に立ったのをはじめとして積極的にその支援に加わるとともに、日教組の全国教育研究集会の講師(1956～66年)、さらには自由民権運動百年全国委員会実行委員長(1980～85年)を務めるなど、歴史学の成果を広く社会に還元し、共有していくという活動にも積極的に関わってこられた。

以上のような遠山氏の歴史学・歴史教育、さらには広く展開された氏の社会的活動を踏まえて、4人の方々にご報告をお願いした。氏の戦後50年近い研究・教育活動の軌跡を振りかえりつつ、歴史学の現在と今後について考える意義ある場にしていきたいと考えている。

日時 2012年1月21日(土曜日) 13時～17時30分

会場 明治大学駿河台校舎リバティータワー1001教室

(JR御茶の水駅より徒歩5分・地下鉄神保町駅より徒歩5分)

資料代 500円(事前申し込み不要)

報告者

板垣 雄三 遠山さんと〈東アジア〉歴史像

大門 正克 昭和史論争後の遠山茂樹—論争の課題をどのように受け継ごうとしたのか

大日方純夫 遠山史学における「自由民権」の位置

丸浜 昭 遠山氏の歴史教育論の何にこだわってきたか

共催 歴史科学協議会・歴史教育者協議会・歴史学研究会

お問い合わせ先 歴史学研究会 電話03-3261-4985

*詳しくは当会サイトまで <http://rekiken.jp>

*シンポジウム終了後、「偲ぶ会」(一般5,000円/院生・学生3,000円)を開催いたします。